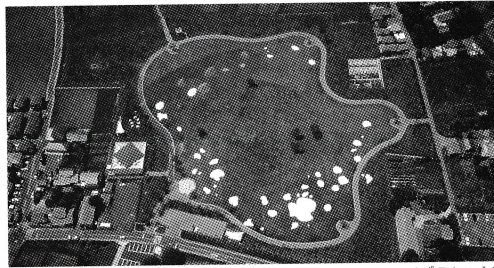


Q&A2. みずこ 水子のムラ

みずこ かいづか 水子貝塚は、じょうもん じだいぜんき 縄文時代前期（約5,500年前）につくられた60カ所以上の小貝塚（地点貝塚）がドーナツ形に分布する環状貝塚です。貝塚の中には、土の中では腐って残らないものも腐らずに残っていることがあり、当時の情報がつめこまれているタイムカプセルのような遺跡なのです。

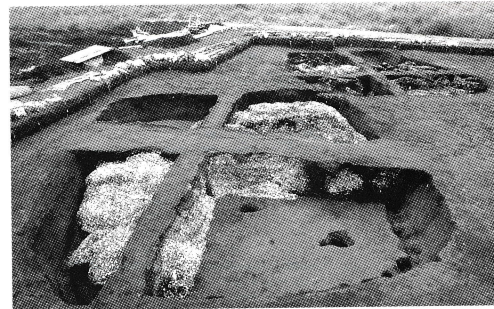
Q：どうして水子貝塚はドーナツ形になっているの？



▲空から見た水子貝塚

モリ：『貝塚の下から、大きな穴が現れたぞ。』

博士：『それは住居の跡じゃよ。どうやら水子ムラに住んでいた人は、家を建て替えて、使わなくなった住居の跡に貝がらを捨てたようじゃ。』

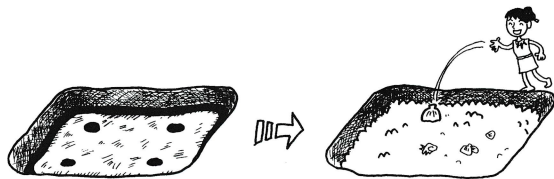


▲貝塚の下から住居跡が…

カヤ：『じゃあ、これだけたくさんの貝塚の下には、みんな住居の跡があるの。60軒以上の大きなムラだったってことなのね。』

博士：『ところが、決してそういうわけではないのじゃ。中には貝塚のない住居跡もあるし、当時の住居は、今の家のように長持ちしなかったと考えられる。また、採集できる食べ物の量などいろいろなことを考えても、一度に建っていた住居は10~20軒くらいと考えられるのじゃ。』

モリ：『ふ〜ん、でも10や20の家で、ドーナツ形のムラにはならないね。』



A みずこ 水子に住んでいた人々が、古くなったり狭くなったりした住居を建て替えていった結果、水子ムラの形はドーナツ形になりました。水子貝塚では、使われなくなった住居跡に貝がらを捨てているため、結果的に貝塚の形もドーナツ形になったのです。

★水子貝塚を発見したのは…

大正5年（1916）に安部立郎が「水子 大応寺前 貝畑」に遺跡を確認、『石器時代遺物地名表』に報告し、昭和12年（1937）に酒誌仲男（1902~1965）がこの「貝畑」という地名に注目。水子貝塚を発見しました。



酒誌仲男 ▶